

当亥三月廿六日昼時常陸国原舎ノ濱と申所如図  
 異国舟漂着致候 漁船多く出し引揚候所年齢廿  
 才斗成美 髪赤黒く髪同断歯白く細力也  
 色少青白く眉毛赤黒く髪同断歯白く細力也  
 右婦人式尺四方程の箱を所持いたし大切成物  
 入候哉人近寄候へバ抱候て手を放し不申候

舟の図

縦：約3・6m

式間



横指渡し三間

横：約5・5m

候申不カワ分リヌ朱

此筋鉄と相見申候

少しくろし

杉のごとく成ル木

白ニテシナ不分明



沓黒皮

青 アヲ色ニテ子リモノ



船中改候所如此文字船の中ニ多く有之候

当亥年（享和3癸亥年11803年）3月26日の昼時、常陸国（茨城県）原舎ノ浜に、図のような異国船が漂着したので漁船を出して引き揚げたところ、20歳くらいの美しい婦人が一人乗っていた。背の高さは5尺（1m50cm）くらいで色は少し青白く、眉毛と髪は赤黒く、歯は白く細かであった。この婦人は2尺（60cm）四方くらいの箱を所持しており、大切な物が入っているのか、人が近寄ると抱えて手を放そうとしなかった。

【舟の図】

- ・ 縦は2間で、横は3間。
- ・ 朱塗り部分（の材質）は不明。
- ・ 下の縦筋は鉄に見える。
- ・ 下部少し黒い。
- ・ 下部杉のような木

【女性の図】

- ・ （被り物）白で材質品質は不明。
- ・ （ボタン）青色で、練り物。
- ・ 沓は、黒皮。

【文字のようなもの図】

船中を改めると、このような文字が船の中に多く見られる。

敷物躰しきもの和やわらか成物式枚  
喰物菓子くいものと思しきもの又肉類ね衾ねりたる様の物  
有之

図の類の物ニ水式斗と程入置く

茶盃躰ちやわんの物なり



此品はなはだうつくしき甚美敷模様有之石とも見え申候

右之段 公儀こうぎへ御訴申上候

此事偽いつわちと聞たり八月漂流せし□□□

書付遣候 公儀二届有候哉承遣候

此事偽也といふ事 北村久備ひさともより

申遣候

敷物のようなやわらかな物が2枚。  
食物は、菓子と思われるもの、また肉類の練り物がある。

図のような物に水が2斗(約36L)程入っている。茶碗のような形をしている。

### 【茶碗のような物の図】

これにはとても美しい模様があり、(材質は)石のようにも見える。

右のことは、公儀へ報告済みである。

この事は偽りと聞いた。8月に漂流していた：書付を付けてやった。公儀に届があるか確かめるため遣いを出した。

この事が偽りという事は、北村久備から聞いた。

※北村久備：本居宣長の後継者である平田篤胤の弟子で、『源氏物語』の注釈書『すみれ草』の著者として有名な越後国与板藩藩士。